

摘心処理による利平栗の結果母枝増加法

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

担当者：大崎 伸一

研究のねらい

利平栗は他の品種に比べて樹勢が強く、特に若木時代は生育が旺盛で、枝梢は徒長的に伸長しやすく優良な結果母枝が確保されにくい。また、徒長的な伸長は強風による枝の損傷（枝折れ）被害を受けやすい。これらのことが若木期の低収量の原因となっている。そこでこれらの問題を解決するための方法として利平栗の若木期における摘心処理の時期と程度が翌年の収量・品質に及ぼす影響について検討した。

研究の成果

- 1 摘心処理の時期・程度と副梢の本数については、開花前10日・新梢1/3除去区、満開期・同1/3区が多く、逆に開花後10日・1/3区が少なかった。また、処理時期に関係なく1/2区は前者に比べ少なかった。副梢の長さは処理時期が早い区ほど長い傾向にあった。
- 2 翌年における摘心処理枝当たりの着穂数では、満開期・1/3、開花前10日1/3区が多かった。処理時期に関係なく、1/2区は無処理区より少なかった。
- 3 摘心処理区の副梢に着果させた果実は、果実重や塩水選比重などの品質面で無処理区と同等であった。
- 4 若木期の収量増大のためには、雄花の開花前10日頃から開花期にかけて新梢の枝先1/3程度を摘心することにより、無処理に比べて翌年の結果母枝が増加し35~40%の収量増大が見込まれる。また、摘心を行うことにより、樹がコンパクト化し強風による枝折れ等の軽減にもつながることが考えられる。

普及上の留意点

- 1 摘心処理を行う場合、雄花が着生した枝ではその部位には芽がでないため、それより3~4芽残すようにする。
- 2 弱小な新梢や処理時期が遅れた場合は副梢の発生が見られないことが多いので注意する。

表 1 摘心処理前後の枝葉の状態

(平成 7 年)

区分	処理日(月 / 日)	処理直前		処理直後		
		新梢長 (cm)	葉数	残存枝長 (cm)	残存葉数	
開花前 10 日	・ 1 / 2 摘心	5/22	33.2	12.9	16.6	9.3
"	・ 1 / 3 "	5/22	32.2	12.6	21.5	9.9
満開期	・ 1 / 2 "	6/5	52.0	17.4	26.0	10.5
"	・ 1 / 3 "	6/5	50.1	18.1	33.4	13.4
開花後 10 日	・ 1 / 2 "	6/15	62.5	22.8	31.3	13.1
"	・ 1 / 3 "	6/15	61.9	22.6	41.5	17.2
無処理	-	-	65.2	22.4	65.2	22.4

表 2 摘心部位から発生した副梢の翌春における枝質調査

区分	発生本数	副梢長 (cm)	基部径 (mm)	先端径 (mm)	
開花前 10 日	・ 1 / 2 摘心	1.88	55.8	8.0	3.8
"	・ 1 / 3 "	2.33	53.0	7.4	3.2
満開期	・ 1 / 2 "	1.63	40.1	6.8	3.7
"	・ 1 / 3 "	2.29	48.6	7.0	3.9
開花後 10 日	・ 1 / 2 "	1.80	40.5	7.6	3.6
"	・ 1 / 3 "	1.44	30.8	7.3	3.8
無処理	0	-	(10.5)	(4.7)	

(注) 太さの測定は、基部、先端部より 2cm の位置を測定。

表 3 摘心処理翌年の着穂状態、収穫果の果実品質

区分	1 果重 (g)	果実比重 (塩水選)	
開花前 10 日	・ 1 / 2 摘心	31.3	1.090
"	・ 1 / 3 "	28.6	1.091
満開期	・ 1 / 2 "	34.0	1.095
"	・ 1 / 3 "	32.4	1.092
開花後 10 日	・ 1 / 2 "	29.2	1.101
"	・ 1 / 3 "	26.6	1.102
無処理		27.9	1.094

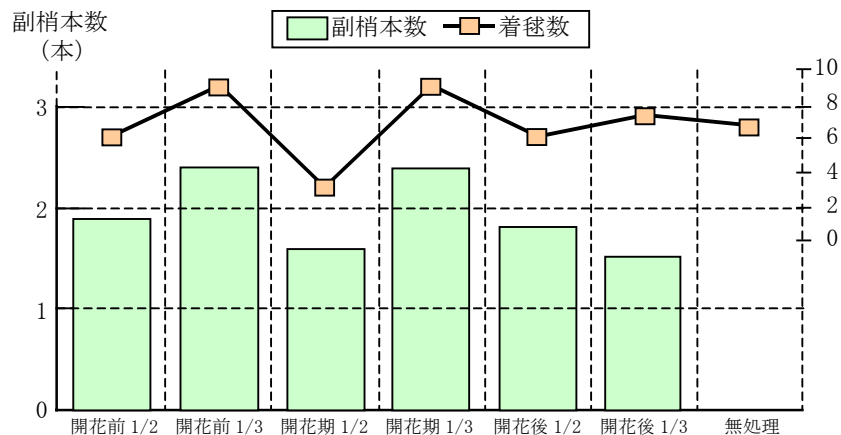


図 1 摘心処理枝当たり副梢発生数、着穂数